

農業ふれあい公園だより

No. 23

2016
(平成 28 年)
MARCH

【岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館】 岩手県北上市飯豊 3-110 TEL 0197-68-3975



農業ふれあい公園は、広さ17haの緑に囲まれ、公園の中には芝生広場、ひょうたん池、棚田、グランドゴルフ場、ゲートボール場があり、広い駐車場ときれいなトイレも整備されています。芝生広場は、子供たちの遠足や、家族でのピクニックなどで、ゆっくり安らぐことができます。

また、外周には樹木に囲まれた散策路がありランニングやウォーキングに最適です。その距離は、公園1周コース1.7km・農業研究センター外周コース4.6kmとなっており、35,000本の樹木と花々が季節を楽しませてくれます。



5月 ベニハナミズキ



7月 ナツツバキ



10月 マユミ

公園内の農業科学博物館には、江戸時代後期から昭和40年代まで農作業や農家生活で使用していた用具など約4,500点の資料が収蔵されています。

館内は、二つの展示室に分かれています。第1展示室「農業れきし館」では、かつての農家の暮らしと作物毎の農具を展示しています。他に県内各地の農業と食文化、凶作に苦しんだ岩手の農業の歴史や地域農業の発展に尽くした人々を紹介しています。第2展示室「農業かがく館」では、田んぼの科学や野菜の由来、牛の胃のしくみなど、科学の目でみた農業の不思議をわかりやすく伝えており、毎年多くの小学生や幼稚園児が学習や遠足などに訪れています。



…農業科学博物館・ふれあい公園トピックス…

親子で体験「そば作り学習会」 平成27年8月2日～11月8日 4回講座

そばの種まきからそば打ちまでしました～♪



種まき



そばの生育観察



農の生け花展 平成27年9月5日



一日子ども研究員 平成27年7月31日



レトロ発動機実演 平成27年9月5日

懐かしい昭和のエンジン・におい・振動に人が集まりました～♪



世界に一つしかない「松飾り」をつくりました 平成27年12月20日



平成27年度企画展レポート 「むかしの稲作」

平成27年度は、企画展のテーマを「むかしの稲作」として4シリーズで紹介しました。岩手県は、昭和30～31年に当時の農林省の委託を受けて県下10か所の作業方法を写真で記録しており、農業科学博物館ではその調査記録簿を収蔵しております。その記録を手掛かりに当時の農作業に理解を深めていただくことをねらいに展示しました。

第64回 育苗 平成27年4月5日(日)～6月26日(金)

第二次世界大戦後の稲作りは、食糧増産、安定多収・省力化など時代の要請を背景として躍進を遂げてきました。

当時の農作業は人力や畜力を使った技術体系が主体でした。昭和22年に発表された保温折衷苗代の育苗方法が、昭和28～29年の冷害を契機に岩手県でも急速に普及され始めました。当時の農作業の慣行は、農家をとりまく自然的、社会経済的条件により異なっており、体系的に撮影された写真から、むかしの育苗作業をうかがい知ることができます。



第65回 田植 平成27年7月5日(日)～9月27日(日)

農業技術が進歩し収量が高まり、昭和25年には、岩手県の米の生産量は33万トンに達し、県内産米が、はじめて東京や大阪など県外に出荷されるようになりました。

田植は農家にとって最大の「^は晴れ」の行事でもありましたが、単に主食の生産作業にとどまらず、その習俗には古くからの儀礼や技術を伝えているものがあります。

田植作業は、^{かまた}鎌立ちから始まり耕起(田打ち)作業、^{きゅうひ}厩肥・肥料散布、^{かんすい}灌水、^{しろかき}代掻、土ならし、型付け、田植えと地域や土地条件などによって様々で人力や畜力を使った作業でした。その作業一つひとつを礎として、技術革新され現在の作業体系に至っています。

作業風景や習俗をまじえて、先人の^{てかず}手数をかけた米づくりへの思いを学ぶ場としました。



第66回 本田管理 平成27年10月6日(火)～12月25日(金)

戦後の稲作は、農地改革によって自作農を目指した農家の生産意欲の高まりと、革新的な農業技術の普及により生産は安定し、食糧危機を克服して時代の要請に応えることができました。

本田管理である、本田除草、畦畔草刈り、追肥、薬剤散布、害鳥獣防除、稗^{ひえ}抜き等の管理作業の写真や関連農具・岩谷堂農業改良普及所の指導資料を展示紹介しました。



第67回 収穫 平成28年1月7日(木)～3月25日(金)

旧暦の8月になれば稲穂は揃い、黄金の波がただよい、十五夜がすぎると稲刈りが行われ、棒掛けやはせ掛けで乾燥し、脱穀にかかり、籾摺りした玄米を俵に入れて供出（出荷）しました。

当時の米は国の管理下におかれ、農家は法律によって一定量の米を納めなければならないことになっていました。その量を指定された日に、指定場所に納めることを供出、納める米を供出米といました。

昭和30年代の農作業は手作業が主で米俵製作ひとつをとっても、藁^{わら}しごき、縄ない、俵編み編み、俵まるき等細かな作業の連続でした。

写真や実際に用いられた農具から、先人の^{てかす}手数をかけた米作りへの思いを学ぶ機会としました。



お知らせ

◆◆◆ 博物館ご利用案内 ◆◆◆

- 【開館時間】 9：00 ～ 16：30（入館は16時まで）
- 【休館日】 毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）
- 【入館料】 小・中・高生は無料
個人 学生140円 / 一般300円
団体（20名以上）学生70円 / 一般140円



農業科学博物館では、多目的ホールを無料で貸し出しています
作品展示や活動発表会にお使い下さい。希望される方は、農業科学博物館へご相談下さい